

鈴鹿市立明生小学校

明生の旗高く

＜ 学校教育目標 ＞

地域とともに

明るく元気に生きる

明生の子

「学力・学習状況調査」の結果と今後の取組について

4月17日に6年生を対象として、令和8年度の全国学力・学習状況調査、児童質問紙調査を実施いたしました。この調査は、児童の学力・学習状況を把握し、授業や生活習慣の改善に役立てることを目的としています。

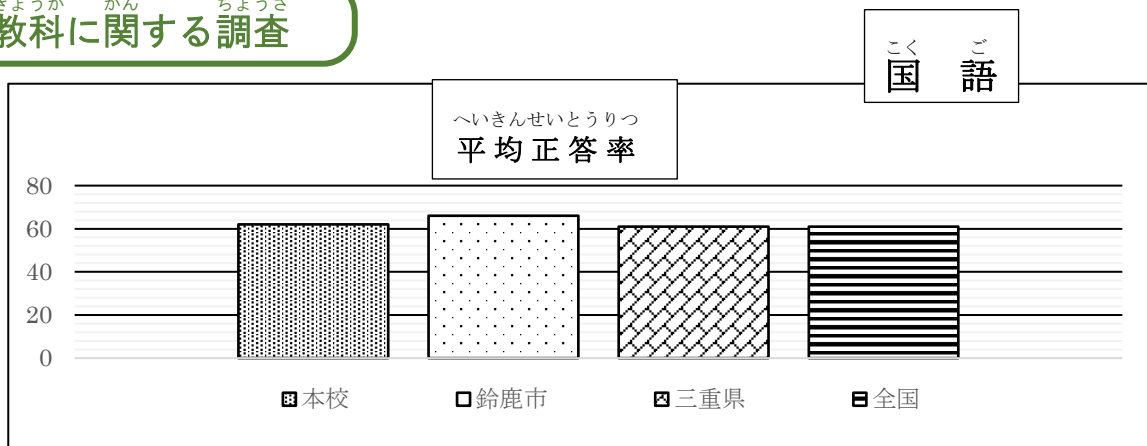
本校では、実施終了後に全教員で解答を採点し、結果を分析した上で、授業改善に活かしています。7月に文部科学省から結果が公表されたので、結果及び結果を踏まえた今後の取組についてお知らせします。

なお、今回の調査により測定できるのは学力の一部であり、学力全般を表すものではありません。

知識・技能とは → 各教科の必要な知識を理解し、学んだ内容を活用できる力。

思考・判断・表現とは → 習得した知識や技能を活用して課題に取り組み、自らの考えを判断し表現する能力。

教科に関する調査



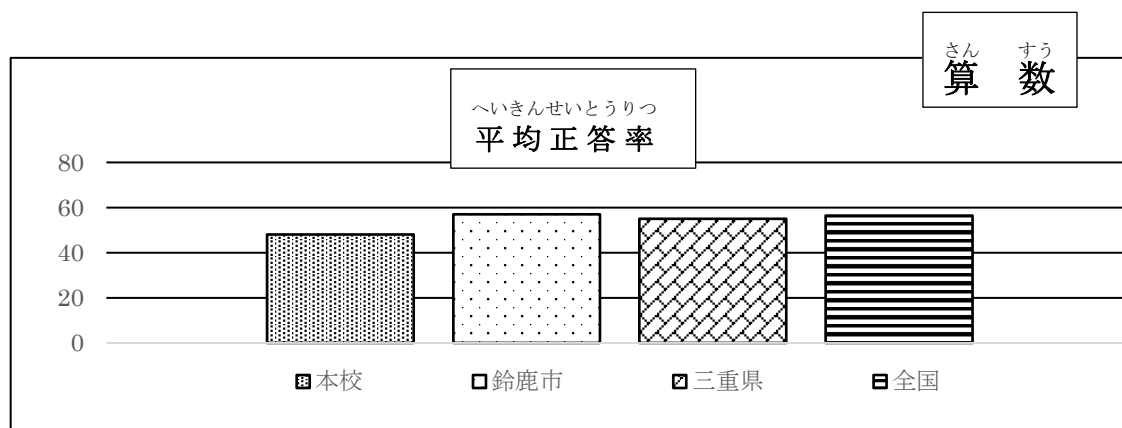
【 強み 】

観点では「知識・技能」が全国値より高く「思考・判断・表現」がやや低い結果になりました。「知識・技能」では、「言葉の特徴や使い方に関する事項」、「情報の扱い方に関する事項」が全国値より高く、「思考・判断・表現」では、「話すこと・聞くこと」が全国値と同等でした。問題の形式では、選択式、短答式は全国値を上回っています。また、無回答率は全国値より低く、どの問題にも最後まであきらめずに取り組んでいます。

【 弱み 】

「思考・判断・表現」の「書くこと」「読むこと」の正答率が全国値より低かったです。

具体的には、文章を読んで自分の考えをまとめることや、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。また、問題形式では、記述式が全国値を大きく下回りました。条件に合わせて自分の考えを記述することが苦手です。



【強み】

算数の領域や観点は、全体的に全国値を下回っており、問題によっては全国値を上回っているものがありますが、国語よりも強みは少なかったです。問題形式では、短答式が全国値と同等の結果でした。全国的に正答率の低い「概数」や「割合」、「単位分数」に関する問題は全国値を上回っていました。

【弱み】

算数では「知識・技能」、「思考・判断・表現」とも全国値より低く、領域別では「図形」「測定」「データの活用」が全国値より低かったです。特に記述を伴う問題に課題がありました。無回答率は全国値より低い結果でしたが、国語と比べると高かったです。

また、基礎的・基本的な問題の誤答が多いことから、全体的に基礎的・基本的な力に弱さがあることが見て取れました。具体的には、「立方体の体積」や「小数の引き算」、「グラフの読み取り」ができていませんでした。

調査結果を踏まえた取組

- 授業内で、子どもが「めあての設定」や「学習方法を選択」する機会をつくり、子ども自身が自分で考え取り組んでいく活動を多く設定するなどの、授業改善に努めます。
- 算数の基礎、基本を身につけさせるために、宿題や朝のモジュール学習などで、その単元の既習事項の課題を出します。
- 鈴鹿市教育委員会が定期的に提供している「読む YOMU ワークシート」や「読む書くワークシート」、三重県教育委員会が提供する「学VIVA！」(既習内容の定着と応用力の向上)に取り組み、長文や初めて読む文章に慣れさせ、国語だけでなく算数の長い問題文にも対応できるようにします。
- 結果から見てきた児童の弱みについて、学校全体で系統的に力をつけていくために、学年ごとに指導方策を検討し、取り組ませます。